

第3回 南砺市水素生成実証事業運営協議会 会議録

I. 開催日時 令和8年5月21日(木) 午後6時30分～午後7時40分

II. 開催場所 南砺市役所 302会議室

III. 出席者 (1) 委員 8名

(2) 事業者 株式会社 BIOTECHWORKS-H2 3名

(2) 市 市民協働課 3名

IV. 欠席者 なし

V. 議題 (1) 開会

(2) 南砺市水素生成実証事業運営協議会の規約の改正について

(3) 事業の進捗状況について

(4) 今後の事業スケジュールについて

(5) 閉会

VI. 会議録 (午後6時30分 開会)

1. 開会

会長 あいさつ

2. 出席者の確認

委員8名のうち8名が出席し、過半数を超えていることから、会議は成立。

3. 南砺市水素生成実証事業運営協議会の規約の改正の説明

(事務局から説明)

市の機構改革に伴い、事務局を総合政策部エコビレッジ推進課から市民協働部市民協働課に変更する。

出席者の同意により、規約の改正を決定

4. 事業の進捗状況について

(事務局から説明)

出席者から質問なし

5. 今後の事業スケジュールについて

(事業者から説明)

委員：補助金申請の採択に向けた取り組み状況を教えてください。

事業者：必ず採択されるかどうかは分かりません。時代の流れや政権交代による補助金の種類や条件の変化も影響しています。実験のための費用よりも、利益の出る事業に対して費用を出す形に変わってきています。経産省関連と東京都関連の補助金は両方一緒に採択を受けることはできないので、どちらかになります。

委員：基本的にはこのプラントは実験が終わったら解体するというお話だったと記憶していますが、今日の資料を見ると、実証で終わらせずに長く続く事業に育てると話が変わっています。我々は事業を続けてほしいと前回要望したと思っているのですが、こんなに簡単に要望通りに話が変わるものなのでしょうか。

また、どうやってこの水素は活かすのですか。発電所でも建てるのですか。

事業者：皆様とともに続ける方向を考えると市長からも言っている通り、事業を続ける方向で頑張っていきたいです。ただし、補助金を使える期間が終わると運営は100%自費になります。売却するとなれば補助金を返さなければならないので難しいです。

発電はリサイクルセンター内で行い、サイズはトラックの2~4トンくらいで、燃料電池（車のエンジン8台分くらい）を置いて発電していきます。

委員：実証事業でノウハウを確認した後に、このプラントの技術検証の成果がどんな風に波及していくのですか。色々なところに技術売り込むような動きになるのでしょうか。

事業者：経済産業省の補助金の場合は、日本にメリットがあるような事業にしないといけません。日本のゴミ処理というよりも、エネルギーを作る施設として広げていくことをやっていきたいです。南砺の実証結果をもって、各地域に広げていこうと考えています。

東京都から補助金を頂けた場合には、東京都とも今後こういう設備を広めるべく連携して進めていくことになると思います。

委員：つまり、ゴミ処理を資源化する技術ということですか。

事業者：そのとおりです。

委員：令和12年1月以降、継続運転の費用はどんな風に考えているのですか。

事業者：仮説になりますが、南砺市の予算を使うことは前提に考えていません。近隣の事業会社やパートナーの会社から出るゴミの処理料をいただいて処理し、成り立たせていきたいと考えています。また、地方創生の補助金などを一部入れながら運営できればと考えています。

委員:水素を作ることが目的なのか、ゴミ処理場ができることが目的なのか、分かりません。

事業者:廃棄物処理業者になろうとはしておらず、エネルギーを作る会社になろうとしています。経済産業省から補助金を頂くのであれば、エネルギーを作り出していくことが重要で、ゴミを焼却して無駄にしているものをエネルギーにしていくことを進めようとしています。私たちはスキーム提供の会社なので新規でゴミ処理運営会社の許認可を取ることはかなり難しく、ゴミ処理を運営されている会社さんに私たちの技術を使ってもらうこととなります。その技術を実証するためのプラントが南砺だと思っていただければと思います。

委員:実証プラントですべてのゴミを処理できるわけではなく、ゴミの一部を処理するというイメージでよいのか。

事業者:そのとおりです。関西・中国・九州・四国は火力発電の割合が約 30%以上で、仮にそのエリアのゴミを全て弊社のプラントで処理すると、火力発電を大幅に削減できるポテンシャルを持っています。

委員:補助金が確定した時点でいよいよ動き出す事業だと思いますので、確定した時点でもう一度、委員を参集して具体的な話し合いができればと思います。

事業者:そのとおりですね。その頃には処理する廃棄物はこういうものだというのが明確になってくると思います。

委員:当初はゴミ処理に限定されるかと感じていたが、本日のお話で展望が見え、今後に期待したいと思いました。

6. 閉会

(副会長あいさつ)

(午後 7 時 40 分 閉会)